

平潭島に見る中国の台湾戦略

須賀 努

コラムニスト・アジアンウオッチャー

中国福建省と言えば、烏龍茶。某飲料メーカーが我々に巧みに刷り込んだイメージであろう。確かに福建省には烏龍茶もあるが、鉄観音、そしてイギリス人にも愛された紅茶ラプサンスーチョン（正山小種）など、様々なお茶が栽培されている。世界遺産でもある武夷山などは日本でも知られているが、烏龍茶の生産量は中国全体の数%でしかない。因みに7割以上は緑茶であることも付しておきたい。

福建省の省都はどこ

実は福建省の中心都市である省都がどこであるか言える人は決して多くはない。福州市、人口7百万人、2000年以上の歴史があり、かつては科挙の試験合格者が全国でもトップクラスであったという文化都市。近代はアヘン戦争後に開港された5つの港の一つでもあるが、何故か日本での影は薄い。

そして改革開放後に指定された経済特区には、シンセンなど共に福建省ではアモイが選ばれ、80年代に開発が進められ、アモイの知名度が大いに向上した。特に福建省は対岸にある台湾との関係が深く、多くの台湾人が福建出身であることから、台湾からの投資に期待を掛けた。実は福州市にも多くの台湾投資家が投資を行い、台湾企業が列をなした時期がある。

現在福州市には高層ビルや郊外の新築住宅も見られるが、市内中心部には80年代台湾の投資で建てられた古めかしいビルが多数残っており、この景観が発展から遅れた都市、という印象を持たせているかもしれない。また市内から1時間ほど行った港町、

馬尾地区には、台湾企業が集中して工場を建設していたが、それも今では数が減ってきているという。

福州市内への台湾からの投資は激減、替わって中国人投資家の投資が始まっている。台湾人は内陸部へ移っていった、とのことであるが。

新たな開発拠点 平潭島

3年前に福州市を訪れた際、副省長より「台湾との交流を一層強化する」として説明を受けたが、その内容には少なからず驚いた。何と北京から台北まで高速鉄道を通すというのだ。実際にその後北京－上海間は開通し、上海－福州間はその昨年鉄道事故を起こした区間である。しかしその後はどうするのか。計画では福州市郊外の平潭島まで陸路を通し、そこから台湾対岸までは海底トンネルを作るという壮大なものであった。地図で見ると台湾側の新竹まで68海里（125km）、可能性はあるのだろうか、今回その平潭島へ行って見た。

福州市内からおよそ2時間、高速道路が開通し、



写真1 漁村に出現した平潭島の巨大フェリーターミナル



【須賀努氏のプロフィール】

東京外語大中国語科卒。
金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。
現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。



全長5kmの平潭海峡大橋も完成しており、スムーズに島へ入る。途中車は殆どは走っておらず、付近には海外移民で有名な福清市の長閑な風景が見えた。しかし橋を越えた途端、一面の埋め立てと建設現場が見えてきた。相当の規模の開発が行われようとしている。

市内は左程大きくはないが、あちこちで新築マンションの建設が行われている。「島の人口は40万人、明らかに投資目的の開発だ」と地元住民も話す。またこの規模の都市としては異常にホテルが多い。これから5つ星ホテルの建設も予定されているという。昨年温家宝総理は「平潭島への投資を加速する。総額1.1千億元、1日1億元を投資する」と宣言。この計算だと3年間で大開発を行うことになっている。

フェリーターミナルがあるというので行って見た。市内から車で約20分、見事な漁村に、突如巨大なターミナルが建設中であった。既に海峡号と言う名のフェリーが台中との間を2時間半で往復しており、ちょうど我々が行った時に中国人観光客を乗せたフェリーが台湾から戻った所であった。

「90年代、このあたりは台湾の漁師がこっそりやって来て夜遊びを楽しんだ場所なんだよ」と地元漁民が声を潜めて教えてくれた。その鄙びた漁村が今、急速に変化しようとしている。2-3年内には目の前の光景も全て無くなるかもしれない。

台湾を引き込む中国戦略

『現在建設中のマンションは台湾人が購入する場合、優遇措置があるらしい』、地元住民はちょっと不満そうにこう漏らす。既に地価は上昇しており、



写真2 平潭島市内で進むマンション開発

平均でも8000-9000元/m²。ちょっと高級だと2万円の物件も出て来ている。こうなると福州市内中心部と変わらない。明らかな投機が起ころうとしている中、台湾人を優遇するには理由が必要だ。

今年に入り台湾と連携して開発する「平潭総合実験区」構想が発表され、実験区行政組織幹部に台湾人を高額報酬で採用する方針が打ち出され、かなりの希望者が出たという。中国が領土の一部を曲がりなりにも本土人以外に管理させる、これは最大の譲歩であり、またこれを最大の武器として、台湾との統一、「一国二制度」への布石としていることに違いはない。勿論台湾側は相当警戒をしているが、経済的な利益は馬英九政権を支える重要な要素。

中国国内にはいくつもの開発計画があるが、ここ平潭島の場合は政治的な要因が多く、政府も積極的に開発を進める。次期政権を担う習近平氏も福州市書記、福建省長を歴任、この所縁のある福州で台湾との政治的な統一を果たせばそれが最大の功績になるが、事はそう簡単に行くのだろうか。平潭島の今後には是非注目して行きたい。